（別記様式第１１号）（第３の８関係）

（　　地域）

平成21年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	伝統文化こども教室・こども音頭取り育成事業
事業主体 （連絡先）	新野高原盆踊りの会 （熊谷　寛　ＴＥＬ ０２６０－２４－２００１ ）
事業区分	（２）教育・文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	４３９，０５５円（うち支援金：１９６，０００円）

事業内容

・地域の高齢者等を講師に、「新野の盆踊り」をはじめ当地区に伝承されている郷土芸能、郷土史、史跡、民話等の学習・実践の場として、小学校４年生から中学３年生までを対象に「こども教室」を２７回開催。
・盆踊りでは、こども教室の受講者全員が「こども音頭取り」として２回の練習と小中学校全体の盆踊り練習(小学校１～３年生、及び教職員)に参加し、地区内特別養護老人ホーム「赤石寮」夏祭りの盆踊り大会、国指定重要無形民俗文化財「新野の盆踊」、更にうら盆に参加した。

（活動写真）

別紙　伝統文化子ども教室
実施報告書による

【　　】

自己評価（事業実施率）【 Ａ 】

事業効果

・盆踊りの七種類の踊り全てを覚え、盆踊りには全員が参加し、中学生は櫓の上で盆唄を唄いながら踊り、踊りを進行していく責任を十分に果たすことができたとともに、祭りを構成する大切な役目があることを自覚し伝承していこうとする意識が高まった。小学生は、櫓に登る機会こそないが、踊り子として踊りの輪に参加し、盆踊りを十分に盛り上げることができた。
・盆踊りを含め、子ども教室で実施する事業は、伝承のみならず講師の高齢者にも活力を与えるとともに世代間の交流を図る機会となっている。
・子ども教室に参加する子どもたちが盆踊り等の地元の祭り、行事に参加し関わることに、地域の住民かも絶大な感謝と称賛を受けることができた。

【目標・ねらい】

●７種類の盆唄・踊りを全て覚え住民の中で実行できる。
●異年齢との交流を通じ、地域の一員としての自覚を持つ。
●郷土の歴史を知り、ふるさとを愛し誇りに思う心を育てる。

自己評価（目標達成率）【 Ａ 】

今後の取り組み

・伝統文化の伝承は、次代を担うこども達に永続的に行うことが最も重要で、祭りの技能はもとより継承しようとする心を育てていきたい。
・より多くの機会を設け小学校・中学校と連携し、郷土芸能の伝承と後継者の育成を図りたい。
・ふるさとを愛し、誇りに思う心を育てていきたい。

※自己評価欄は「Ａ」90%以上「Ｂ」70～89%「Ｃ」50～69%「Ｄ」49%以下で示すこと。